

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0272600404		
法人名	株式会社渋田産業		
事業所名	グループホーム内山苑		
所在地	青森県下北郡大間町大字大間字大川目37-1		
自己評価作成日	平成22年9月22日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272600404&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月22日

(ユニット名 A 棟)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜祭り、夏祭り、紅葉狩り等季節を感じる事が出来る様に、年間行事の計画を立て家族会も合わせて行う等利用者が家族と楽しめる様支援している。また、利用者の気分転換を図る為に利用者の好きなカラオケやゲーム等をレクリエーションに取り込んだり、買い物やドライブに出掛ける等外出支援を行っている。家族が来苑した際には、利用者の個人記録に目を通して貰ったり家族通信等で情報提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海と山に囲まれた大自然の中にあり、四季折々を楽しめる場所に立地している。敷地内には広い家庭菜園があり、利用者のすべての居室から眺めることができ、日々の楽しみの一つとなっている。目の前に大きなスーパーがあり、コンビニも近隣にあるので散歩がてら買い物も楽しめる。職員会議で理念の理解を徹底し、理念が実際のサービス提供に繋がるよう声を掛け合い、確認しあっている。2ユニット合同のレクリエーションも多く、職員はユニットを通じて馴染みの関係を作っていると共に全ての利用者の状況状態が分かる詳細な表を作り、随時ヘルプできるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年5年目の節目を機に、原点に戻り「こんな事はやめて」「こんな暮らしがしたい」という事で全職員で意見を出し合い理念を作成した。新しい理念作りに全職員が携わった事で理念の共有が出来取り組んでいる。	理念は全職員で検討し、地域密着型サービスの趣旨を踏まえた独自の理念を作成し、玄関に掲示している。職員会議で共有を図り、職員はお互いに声を掛け合い、理念が実際のサービス提供に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公共施設で行われる催し等へ参加をしたり、地域で実施している花壇の手入れに参加している。苑で行う夏祭りへの参加呼び掛けをしたり、地元の桜祭りへの参加もしている。	町内会に加入し、町内会行事、地元の桜祭へ参加等、積極的に交流を行っている。地域へ夏祭りへの参加呼び掛けもしている。近隣の老人クラブ会員が花壇の花植えや畑の草取りに協力してくれる等、良好な関係づくりを行っており日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年3回苑だよりを発行し、役場、病院、社協等に配布し地域の人々に見て貰える様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の活動報告や外部評価結果の報告をし、意見交換を行っている。また、福祉関係について資料を提供してもらう等学習会の場にもなっている。	運営推進会議のメンバーは2町内会、民生委員、行政、包括、社協、家族代表から構成されており、2ヶ月毎に開催している。会議では自己評価や外部評価の結果報告、目標達成計画の説明を行い、毎回積極的な意見交換を行っている。会議の内容は随時職員に知らせており、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、現場の実情等を伝える様にし、支援を得ている。	運営推進会議には町役場福祉担当者や地域包括支援センター職員が参加しており、包括の職員は毎回出席している。パンフレット及び広報紙は最新のを役場へ配布したり、日頃より相談・助言を受ける等連絡・連携し、ホームの質の向上に繋がるよう努めている。	

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>全職員が利用者の身体拘束による弊害を認識している。身体拘束をしなければならぬ理由が発生した場合の同意書を作成し、家族に説明している。玄関に音の出る物を下げる等工夫し、利用者の出入りを確認出来る様にしている。外出しそうな時はさりげなく声掛けを行ったり、気付かれない様に後ろから付いて行った等、見守り支援している。</p>	<p>身体的拘束等の排除の理念、方針等が文書化されており、職員会議で常に確認を行い、理解に努めている。職員同士お互いが気をつけ、声を掛け合い身体拘束のないように日々のケアを提供している。玄関や居室は共に施錠しておらず、危険防止のため、玄関に鈴を下げ工夫している。外出を察知した場合は、職員が付き添い、声掛けをし、うまく帰宅を促している。無断外出時に配慮し、近所や警察の協力を得ている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり資料の閲覧をしている。また、日常のケアに於いても職員の間で虐待しないという事を話し合っている。新しい理念にも取り込み虐待の防止に取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>社協からパンフレットを貰い全員に配布し、その後、県社協による研修にも職員を参加させている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際十分な説明を行っており、個人個人の状態に応じてリスクを説明し同意を得ている。看取りの部分での苑で出来る事出来ない事等の説明をし家族に同意を得ている。</p>		

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け色々意見を出して貰ったり、面会時に苦情等があれば聞くようにしている。	家族の面会や家族会の時に、潜在的に持つ苦情や意見を引き出せるよう、職員は声掛けて働きかけている。利用者に対しては、常に日々の関わりの中で、個々の思いを把握出来るよう努めている。また、苦情解決のための仕組みをフォロー図にまとめ整備している。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の開催や、連絡簿を使い職員の意見や提案を聞くようにしている。代表者、管理者と職員の面談の場を設け意見、要望を聞いている。	年2回、管理者は職員の個人面接を実施し、個々の意見を引き出すように努め、運営者及び管理者で協議し、取り入れるべきものは取り入れる等、柔軟な対応に努めている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回健康診断を実施している。代表者は職員の意見を聞くようにしたり、職能評価を行ったりして、向上心が持てる様な配慮をしている。職員が落ち着いて休める休憩室を設け休憩させている。職員が何でも話せる様な環境づくりを心掛けている。			
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画を作成し、全職員が研修受講出来る様にしている。介護上必要な資料は全職員に閲覧、また、段階に応じて必要な研修が受けられる様に配慮している。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接のグループホームの職員が来苑し、意見交換はしたが、まだ訪問はしていないので、訪問しサービスの見直し等に繋がりたいと思っている。また、近隣の地域包括支援センターで実施している認知症サポーター養成講座の勉強会を行った。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望があった場合は、希望者宅に出向き面談を行い要望を聞いている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望があった場合は、希望者宅に出向き面談を行い要望を聞いている。また、苑の対応について事前に話し合いをしている。入居希望の家族が来苑した時は、入居前の度々の来苑を勧め、急な環境変化とならない様支援している。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯について入居前の調査時に聞き取りをし支援に繋げている。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員が利用者と喜怒哀楽を共にし、時には孫役、母さん役の職員がいたり賑やかに日々を送っている。職員が利用者料理や畑作業を教わったりと、利用者の得意分野で力を発揮して貰っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者がパニック状態になった時は、電話での対応をお願いし、家族にも役者になって貰っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所へ行ける様、安全面に気を配り見守り支援している。	アセスメント時に利用者及び家族によく聞き取りを行うほか、日々の関わりの中で利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等の把握に努めている。知人が気軽に訪問したり、家族が宿泊している。町内の馴染みの美容院を利用する支援等、利用者の希望に応じ柔軟に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な活動を通し孤立しない様支援している。食事やお茶等の呼び掛けを利用者に頼んだりしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても運営推進会議の委員として意見を貰う等協力して頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者と話をしたり、面会者から話を聞く等して思いや意向を把握する様にしている。	日々の関わりの中で全職員が積極的な声掛けを行い、利用者の意向の把握に努めている。また、面会時に家族、親戚等関係者等より情報収集行う等、常に希望や意向の把握に努め、毎日のケア記録により情報の共有を図っている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅に訪問し、ご本人や家族に聞き取りをしている。生活歴としてケース帳に綴り職員にも把握して貰っている。利用者との会話を通して、また面会者が来苑した際にも少しずつではあるが把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを職員全員が把握している。一人ひとりの出来る事を家族の情報からだけでなく、ご本人の日常生活の中で判断し無理強いする事なく援助している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い職員全員で意見交換をして介護計画を作成している。介護計画送付時、家族にも意見を求めている。	利用者の状態や家族、関係者の意向、職員の気づき等、ケア記録をもとに、全職員がモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があった場合には、随時全職員でケア会議を行い介護計画を変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の出来事や身体的状況等を記録し介護計画の見直しに活かしている。職員の気付いたことまたは状態に変化が生じた時は、全職員が周知出来る様にしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時の介助や外出支援等利用者や家族の要望に応じた支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターの事業である「陽だまりの会」を年3回苑でという事で来苑して貰っている。他、社会福祉協議会による「ふれあいサロン」も苑で行っている。避難訓練やボランティアの受け入れ等、様々な機関と協力し支援をしている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診や通院は利用者や家族の要望により対応している。また、通院が困難な利用者は巡回診療や訪問看護が受けられる様に支援している。</p>	<p>利用者のかかりつけ医を把握しており、利用者、家族の希望、要望に柔軟に対応し、受診支援をしている。通院は職員が同行し、医療機関からの情報は定期的に家族通信にて提供するほか、必要に応じて電話連絡を行っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の資格を持った者に、利用者の身体上心配な事があれば相談し指示を受けている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は医療機関に情報提供をし、利用者の入院によるダメージを最小限にするため、頻繁に職員が見舞う様になっている。その際、家族との連絡も密にし入院目的を達成して退院になる様支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の方針を家族に説明し、家族の支援協力をお願いしてある。また、終末期の医療については文書で家族の方針を確認している。本人や家族の意向を大切にし、医療関係との連携を取り、安心して終末を迎える事が出来るような支援を心掛けている。</p>	<p>「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」に明記し、入居時に配布・説明をしている。職員会議において、事業所としての対応について共通理解を得るための話し合いを随時行い、利用者とその家族、医療機関等と早期から話し合い、意思統一を図り連携をして支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応のマニュアルを作成し見える所に貼ったり、心肺蘇生法の講習会に職員を参加させる等しているが、まだ全ての職員が対応できる状態ではない。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し年3回利用者と全職員で避難訓練を行っている。その際消防署の協力を得て消火器を使っての消火訓練等も実施している。</p>	<p>利用者と全職員で避難訓練を年3回行っている。1回は消防署の指導のもと夜間も想定した総合防災訓練を実施している。利用者の状況に応じた、個別具体的な詳細な避難誘導策が作成され、毎月1回、個々の避難訓練を行っている。災害時の食糧や飲料水、毛布等を隣接するプレハブ小屋に備蓄している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>整容の乱れ等があった場合は、さりげなく居室に誘い支援している。個人情報等は部外者の閲覧できない場所に置いたり、プライバシーの保護については、全職員に周知させている他、ボランティアや出入りの業者にも守秘義務を徹底させている。(守秘義務の契約書の記入)</p>	<p>認知症及び認知症ケアに関する研修を行っており、職員会議においても、常に羞恥心に配慮した声掛けや対応について確認されている。個々の居室に無断で入ることもなく、利用者のプライバシーには十分に気をつけている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>出来る事、やりたい事はなるべく利用者の思いが叶う様支援している。利用者の力量にあった支援をしている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態に合わせて出来るだけ利用者の思い通りにし、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット等は職員に美容師の資格を持った者がおり対応している。毛染め、パーマ等については本人の望む所に行ける様支援している。朝の着替えは本人の意向で決めているが、自己決定しにくい方には声掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き一緒に作り、利用者と職員と一緒に食卓を囲み同じものを食べている。片付けは、それぞれの力量にあった役割分担が利用者同士で決まっており、賑やかにやっている。	利用者の好みや希望は十分に聞き取りを行い配慮し、栄養面での管理を行い、食事を通しての健康管理に十分配慮している。また、菜園で収穫された野菜でその日の献立を作っている。誕生日には、利用者の希望の献立を提供している。職員は同じ食卓で会話を楽しみながら、サポートも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。毎日の献立内容を記録し、お茶等を利用者の目の届く所に置き、いつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯の手入れの声掛け等を行い、自分で出来ない利用者には、一部介助で支援している。就寝前は義歯の手入れ及び、洗浄剤に浸け置きするよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗がある利用者にはその力量に応じて時間を決めての声掛け支援を行ったり、トイレに同行し一部介助したり等の支援を行っている。	個々のパターンを良く理解し、手を出し過ぎることのないように、自立に向けて支援している。おむつからポータブルトイレへの移行等、利用者の状況を勘案し職員同士よく協議して、自立に向けたケアとなるよう配慮を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材やおやつに、なるべく一日一回は乳製品を取り入れる等工夫をしたり、運動を促したり自然排便出来る様に取り組んでいる。下剤を利用している利用者は、個々の状態に合わせて使用量や頻度の工夫をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴日は決まっているが、入浴したいという方にはいつでも対応する。利用者の状況に応じてシャワー浴等を実施している。	基本的な入浴は週2回の午後に設定しているが、希望にあわせた対応も行っている。アセスメント時や日々の関わり、家族等関係者からの聴取にて習慣や好みを把握し、個々にあわせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないと起きて来た時は、砂糖湯等を勧め安眠出来る様に支援している。その日の出来事や体調に応じて休息を取り入れる等の支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、お薬写真を利用者一人ひとりのファイルに納めている。また、処方が変わった時は口頭、連絡簿等で職員が分かるようにしている。服薬による症状の変化があった時は主治医に相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲームや体操、カラオケ等で気分転換の支援をしている。それぞれの得意分野で役割分担が決まっており、自然に自分の持ち場に就いている。その日の利用者の気分でドライブに行ったり、イベント等に出掛けたりしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のゴミ捨ての車に便乗して行く事ととも楽しみにしており、希望者の多い場合は順番に支援している。散歩、買い物、ドライブと外出支援している。	気分転換を図るため、希望に応じてゴミ捨て、買物、近所の散歩、ドライブ等の外出支援をしている。今年、車椅子を2台乗せることが出来る車両を配備し、利用者の身体状況に応じた外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理の出来る方にはお金を持って頂き見守りや声掛けをしている。自分で管理出来ない方でも、その能力によって外出時、預かり金から手渡す等工夫している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話出来る様、また他利用者に聞かれない場合は居室で話せる様に支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に季節が分かるような飾り付けをしている。	広く明るいリビングには食卓テーブルセット、大きなソファ、畳コーナーがバランスよく配置されている。室内はカーテンにより調光されるほか、湿度計、温度計にて定時に管理されている。テーブルには季節の草花が生けてありゆったりとくつろげる空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下や玄関に椅子を置きいつでも利用者が交流出来る様にしている。			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	馴染みの家具や小物等の持ち込みを本人や家族に勧め、入居時に持って来て貰い居室に置いている。	タンス、テレビ、仏壇等馴染みの物を置き、家族の写真や作品を飾り、利用者に合わせて居心地の良い居室空間となっている。各居室からは、家庭菜園や季節の花を眺めることができ、楽しめるようになっている。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	手すり等を設置している。浴室の洗い場は滑らない様、また、転んでも衝撃の少ないコルクを使用している。居室、共有スペースの殆んどがバリアフリーになっている。居室の扉が全居室が同じなため、ご自分の居室が分かるように表札を付けている。場所の間違いを防ぐため目印を付けたり張り紙等をしている。			